

○ 学校経営・運営ビジョンについて

学校経営・運営ビジョンの理解やメインテーマ「チャレンジ精神と学びの心で未来を拓く」についての認知度は、生徒は81.8%と昨年度とほぼ同程度で比較的高い認知度でした。一方保護者は61.5%と約半数の認識でした。PTA総会が3年間開かれず、書面での周知であったことが起因していると考えられます。今後もさらなる広報活動の充実の必要性を感じました。

1 「学力の向上」に関する取組について

家庭学習について、生徒の自己評価では宿題については79.4%、宿題や課題以外にも勉強しているが58.5%と昨年度より増加し、ここ3年間で最も高い数値となりました。特に宿題、課題以外にも勉強していると答えた生徒は昨年度より6.3ポイント増加しています。まだまだ数値は低いですが、徐々に学習習慣がつつある様子が見えかけます。この点においては、保護者の評価も上昇しています。また、教員のアンケート結果でも生徒の学習に対して適切な学習課題を与えているとの回答が83.8%と昨年度と比較しても11.7ポイント上昇しました。生徒たちに学習に向かわせるための教員側の工夫もこの結果には反映されていると考えられます。

ICTを活用した授業については、生徒から昨年度に引き続き高い評価を受けており、質問項目に対して90%以上の生徒が関心・意欲や理解の深まりを感じているという結果が得られました。また、教員側においてもICT機器を効果的に活用した授業に取り組んでいるかという質問に対して、100%が当てはまると答えています。

コース・科目の設定は進路希望に合っているかという質問に対しては、昨年度に引き続き生徒で92.4%、保護者で90.9%と結果が良好であり、来年度開校する伊達高校においても高い評価が得られるよう、さらに検討していきます。

2 「豊かな人間性の育成」に関する取組について

服装等やあいさつなど生活指導面においては、昨年度に引き続き生徒、保護者ともに高い割合で肯定的な結果が得られています。また、各種特別活動やボランティア活動の取組についても生徒から90%以上、保護者から70%~85%以上の良好な結果を得ています。この点についても、今後とも社会や地域をつなぐ学校としてしっかりと継続して取り組んでいきます。

生徒理解については、話を聞いてくれるか、なんでも相談できるかといった質問に対して、生徒の78%~88%から肯定的な回答を得ています。この点においては、学校として組織的に担当教員を配置し重点的に取り組んでいるところであり、教員側のアンケート結果からもわかるように先生側の意識も高いです。生徒との面接やスクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携など、今後も生徒に寄り添った教育が推進できるよう取り組んでいきます。

3 「進路希望の実現」に関する取組について

進路希望の実現に向けた取組については、様々な点においてその重要性の認識の違いのためか学年が上がるほど、肯定的な意見が大きく上昇しています。これは例年同様の結果ですが、今年度は例年に比べ第3学年で生徒、保護者とも良好な結果が得られています。また、今年度はよく当てはまると回答した保護者が多く、昨年度に比べ各項目において12.4ポイント~5.6ポイント上昇しています。特に進路実現のための個別指導や進路講演会等の実施の有効性について評価が上がっています。今後とも生徒の進路希望実現に向け、保護者を含め生徒への進路情報の提供を行うことで早期の進路意識の高揚を図り、課外授業や面接・小論文指導等の個別指導の充実を図っていきます。

4 「開かれた学校づくり」に関する取組について

学校からの情報提供等に関する質問事項においては、生徒が89.1%、保護者が81.8%から良好な回答が得られました。来年度から伊達高校となることも含め、今後とも学校内外の各種活動について積極的な情報発信に努めます。